

シラバス

科目分類	専門分野 I ;基礎看護学	開講年次・時期	1年次 4月～8月		
科目名	看護学概論	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師	専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

1. 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。
2. 看護の対象を理解し、看護における基本的な考え方を身につける。
3. 保健・医療・福祉における看護職の専門性と役割について学ぶ。
4. 仲間とのディスカッションを通して絆を深め、看護者に必要な資質を理解し身につけることができる。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	授業ガイダンス、協同学習の進め方 I 看護とは A 看護の本質 1. 看護の変遷	①座席指定 講義	①自分が考えている 「看護」とは ②看護師の職業の 魅力
	2	2. 看護職の成立と発展 1)看護の歴史 2)職業としての看護	協同学習	各自分担された範囲 について発表準備 終了後レポート提出
	3	3. 看護の定義 1)保健師助産師看護師法における定義 2)看護職の団体による看護の定義 3)看護の理論家に見る看護の定義	講義	それぞれの定義につ いての解釈をまとめ る。
	4	B 看護の役割と機能 1. 看護ケアについて 2. 看護実践とその質保証に必要な要件 3. 看護の役割・機能の拡大	講義	
	5	C 看護の継続性と情報共有 1. 施設間の連携、医療機関における情報伝達と共有 2. 多職種チームの連携と継続的な関り 3. 勤労者看護(治療就労両立支援)	講義	病院で働く職種につ いてまとめる。
	6	II 看護の対象の理解 A 人間の「こころ」と「からだ」 1. 人体の構造と機能・病態生理、ホメオスタシス 2. ストレスの影響と患者の心理 3. 対象のこころの理解に役立つ理論	②座席指定 講義	自分のストレス状態と 対処法について考え てくる。
	7	B 生涯発達しつづける存在としての人間 C 人間の「暮らし」の理解 1. 生活者としての人間:「生活」の3つの側面 2. 看護の対象としての家族・集団・地域 D 人間の性:セクシャリティ	講義	人の生活や暮らしと は具体的にどのよう なことから考えてくる。 性のイメージ
	8	III 健康と病気 1. 健康とは何か 2. 健康の関連要因 3. 社会の変遷と健康観の変化 4. 健康の増進と病気の予防	協同学習 講義	自分が考える「健康」 についてまとめる。

9	5. 人々の生活と健康に関する統計 1)国民の健康の全体像 2)国民のライフサイクルと健康・生活 3)現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード	協同学習	各自分担された範囲について発表準備
10	IV 看護の提供者 1. 看護職の資格と養成に関わる制度 2. 看護職者の就業状況と継続教育 3. 看護職養成制度の課題	講義	2025 年問題について調べる。
11	V 看護における倫理 1. 職業倫理としての看護倫理 2. 患者の権利とインフォームドコンセント 3. 現代医療における倫理的問題 4. 医療専門職の倫理規定	③座席指定 講義	テキスト④「よくわかる看護者の倫理綱領」を読んでくる。
12	5. 看護の本質としての看護倫理 6. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 7. 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義 協同学習	課題事例に取り組み臨む。
13	VI 医療・保健・福祉サービス提供の場と看護 1. サービスとしての看護 2. 看護の機能と活動の場における特徴 3. 保健医療福祉活動におけるチーム活動と看護の役割	講義	
14	VII 医療安全と医療の質保証 1. 看護・医療事故の概念 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 医療における患者の安全確保	講義	
15	試験		

◆教科書

- ①系統看護学講座 専門①看護学概論 基礎看護学〔1〕, 医学書院
- ②新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論, メヂカルフレンド
- ③系統看護学講座 別巻 看護史, 医学書院
- ④よくわかる看護者の倫理綱領, 照林社

◆参考文献

- ・ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学 看護学概論, メディカ出版
- ・金子道子編集;看護論と看護過程の展開, 照林社
- ・黒田裕子;看護診断のためのよくわかる中範囲理論, 学研
- ・松木光子編集;看護理論, ヌーヴェルヒロカワ
- ・野川道子;看護実践に活かす中範囲理論, メヂカルフレンド社
- ・内海眞編集;看護・医療事故防止, 医歯薬出版

◆成績評価の方法

筆記試験80% 授業態度(グループワーク参加姿勢・課題学習の取り組み)20%

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	2 年次 7 月～10 月		
科目名	看護理論	単位数	1 単位	時間数	15 時限
担当講師	専任教員	講義時限	14 時限	試験時間・配点	45 分 100 点

◆学習目標

1. 理論、研究、実践の関係を学び、看護理論の学習の意義を理解する。
2. 看護における代表的な理論の基礎を理解する。
3. 看護理論の実践への活用について学ぶ。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	I 看護の理論と実践 1. 看護理論とは何か 2. 看護理論をなぜ学ぶのか 3. 看護理論の範囲 4. 看護理論の変遷と主要な看護理論 1) ニード論 2) 相互作用理論 3) システム理論 4) ケアリング理論 5. 看護理論を実践に活用するためには	講義、PP	
	2	II 理論の概要と実践への適用(理論家別) 1. ジョイス・トラベルビー アイモジン・M・キング	講義、PP GW	提示された理論家について事前に学習して臨む。(必須)
	3	2. シスター・カリスト・ロイ		理論家ごとにテキストの枠組み 1～7 まで読みライン(色分け)を引く。枠組み 1～6 についてノートに要約する。
	4	3. ドロセア・E・オレム		
	5	4. ジーン・ワトソン		
	6	5. マドレーン・M・レイニンガー		
	7	6. アギュララの問題解決型危機モデル ストレス・コーピング理論		* テキスト 2) を使用し事前学習
	8	試験		

◆教科書

- 1) 黒田裕子監修; ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂 4 版, 日総研
- 2) 野川道子編著; 看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版, メヂカルフレンド社

◆参考文献

- ・正木治恵・酒井郁子編著; 看護理論の活用-看護実践の問題解決のために-, 医歯薬出版
- ・城ヶ端初子編著; ケースカンファレンスで実感! 臨床で使いたくなる看護理論, メディカ出版
- ・城ヶ端初子編著; 新訂版 実践に生かす看護理論, サイオ出版
- ・黒田裕子監修; 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第 2 版, 学研
- ・松木光子編集; 看護理論 理論と実践のリンケージ, ヌーヴェルヒロカワ
- ・ナーシンググラフィカ 基礎看護学①看護学概論 メディカ出版
- ・竹尾恵子監修; 新訂版 超入門 事例で学ぶ看護理論, 学研
- ・月間ナーシング 10 月臨時増刊号 臨床現場の困ったを解決する看護理論, 学研

◆成績評価の方法 筆記試験 70 点 事前学習の取組み・グループ内での発言など 30 点

◆関連科目

トラベルビー、ペプロウ、オーランド、ウィーデンバック、オレムについては、精神看護援助論Ⅱで学習します。

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	2年次 5月～8月		
科目名	臨床看護総論	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師	看護師・専任教員	講義時限	28 時限	試験時間・配点	90 分 100 点

◆学習目標

1. 慢性期・回復期・リハビリテーション期にある対象のニーズと看護援助を理解する。
2. 急性期看護の特徴と対応・危機管理について知識を得る。
3. 周術期における生体侵襲、患者及び家族の心理とその看護について理解する。
4. 終末期にある対象のニーズと看護援助を理解する。
5. 健康障害の経過の特徴と主要症状別看護、治療別看護を統合して、必要な看護ができる。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	科目ガイダンス I. 身体機能の変調に合わせた看護の考え方の概要 (経過別看護、症状別看護、治療・処置別看護) ★闘病記レポート(事前課題)を活用した協同学習	講義 協同学習	
	2	II. 経過別看護(慢性期) 1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助	講義	
	3	III. 経過別看護(回復期・リハビリテーション期) 1. 回復期にある患者の看護 2. リハビリテーション期の特徴と患者のニーズ 3. リハビリテーション期にある患者への看護援助	講義	
	4	IV. 経過別看護(急性期) 1. 急性期の特徴・生体反応 2. 急性期における患者・家族の看護 3. 周手術期看護・チーム医療について	講義	
	5	4. 手術室看護と看護師の役割 5. 術前～術中～術後の看護 6. 術中の安全管理、手術体位	講義、演習	
	6	7. 術後の看護について 8. 術後合併症予防と早期回復に向けた看護 9. 創傷治癒過程、術後疼痛管理、ドレーン管理	講義、演習	
	7	V. 経過別看護(終末期) 1. 終末期とは 終末期医療とギアチェンジ 2. 終末期におけるチーム医療、倫理的課題 3. 終末期にある人と家族への看護援助 4. 死の判定と臨終・死亡時の看護	講義	
	8	VI. 輸液療法を受ける対象者への看護(治療・処置) 1. 輸液療法の特徴 2. 輸液療法中の看護援助 演習-1・2 グループ発表・シナリオ提示、GW の計画立案	講義	グループ計画表提出 課題事例に取り組む DVD 参照
	9	VII. 安静療法を受ける対象者への看護(主要症状) 1. 安静療法の特徴 2. 安静療法中の看護援助	講義	
	10	VIII. 化学療法を受ける対象者への看護 1. 化学療法の特徴 2. 化学療法を受ける患者・家族への看護援助	講義	
	11	IX. 放射線療法を受ける対象者への看護 1. 放射線療法の特徴と目的、照射方法	講義	

12	2. 放射線の治療過程に伴う看護 3. 代表的な有害事象とその看護、副作用の実際 X. 主要症状の看護 1. 痛みとは、痛みのアセスメント 2. 痛みに対する薬物療法・非薬物療法 3. 痛みにも有効なケア	講義	
13	XI. 演習-1(回復期・慢性期患者の看護) 「病気の理解とシナリオの看護を考える」 グループ別に事例の病態を理解し必要な看護を考える(病態が	グループごとに プレゼンテーション	発表用資料作成・配布
14	見えるように) グループ発表 演習-2(主要症状の看護) 「シナリオの看護援助の実際(看護技術の適用)」 シナリオの患者に必要な看護援助を実践する	グループごとに プレゼンテーション	発表用資料作成 * 事前に実技の練習 演習後レポート提出
15	試験		

◆教科書

- 1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論、医学書院
- 2) 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護、メヂカルフレンド社
- 3) 病気・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 第3版、医学書院
- 4) 高木永子監修;看護過程に沿った対症看護 第4版、学研
- 5) 竹尾恵子監修;看護技術プラクティス 第3版、学研
- 6) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院
- 7) 周手術期看護(インターメディカ)
- 8) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア、医学書院
- 9) 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院
- 10) 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学、医学書院
- 11) DVD 看護のためのアセスメント事例集 第2版
 - VOL.1 左大腿骨頸部骨折患者の看護事例
 - VOL.6 乳房温存術を受けた患者の看護事例
 - VOL.7 慢性心不全患者の看護事例
 - VOL.8 慢性呼吸不全患者の看護事例
 - VOL.10 急性骨髄性白血病の患者の看護事例
 - VOL.11 慢性腎不全の血液透析患者の看護事例

◆参考文献

- 1) 野川道子;看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社
- 2) 黒田裕子;看護診断のためのよくわかる中範囲理論
- 3) 中西睦子;成人看護学—慢性期、建帛社
- 4) 新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護学総論、メヂカルフレンド社
- 5) 周術期管理チームテキスト 第2版 (日本麻酔科学会)
- 6) 手術室看護 術前術後をつなげる術中看護 (医歯薬出版株式会社)
- 7) 周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 (医学書院)
- 8) ポジショニング学 (中山出版)
- 9) オペナースィング 第28巻4号・第30巻4号(メディカ出版)
- 10) ナースのためのドレーン管理マニュアル (照林社)
- 11) 臨床看護学叢書2 経過別看護 第2版、メヂカルフレンド社

◆成績評価の方法

筆記試験 90点 GW 10点

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	1 年次 9 月～3 月		
科目名	基礎看護学:看護過程	単位数	1 単位	時間数	30 時限
担当教員	専任教員	講義時間	28 時限	試験時間・配点	90 分 85 点 課題 15 点

◆科目目的

対象の特殊性・個性に合わせた看護を実践するために看護過程のプロセスを理解する。

◆科目目標

1. 看護過程の概念と、看護過程を活用する意義を理解できる。
2. 看護過程の段階とそれぞれの構成要素について理解できる。
3. ヘンダーソンが考える看護(看護の概念と概念枠組み)と、考えに基づく看護過程を理解できる。
4. 看護過程における記録・報告の意味が理解できる。
5. ペーパーペイシエントの事例をもとに看護計画を立案することができる。

	回	授業内容	方法	事前課題・提出物	使用テキスト
授 業 計 画	1	I. 看護過程とは 1. 看護過程とはなにか 2. なぜ学ぶのか 3. 看護とは 4. 看護過程の考え方 5. 看護過程の構成要素	講義	事前課題 使用テキストの該当頁の復習と予習 テキスト②p11 ICN「看護の定義」について予習 4 回目(11 月上旬)まで 「看護の基本となるものの」を読み、5 月に低学年学習支援で提出したレポートを読み返しておく	シラバス ①p218～223 ②p2～21
	2	II. 看護過程の基盤となる考え方 1. 人間関係過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション	講義	事前課題 使用テキストの該当頁の復習と予習 テキスト②p11 日本看護協会「看護者の倫理綱領」について予習	①p223～238
	3	III. 情報の収集と分析 1. 情報収集とは 2. 情報収集の方法 3. 情報の分析	講義 DVD		①p238～252 「看護論シリーズ アイダ・J・オーランド, アーネスティン・ウィーデンバック」のビデオを視聴(27 分)
	4	IV. ヘンダーソンの考えに基づく看護過程 1. 看護理論とは 2. ヘンダーソンの生い立ち 2. ヘンダーソンの人間・環境・健康・看護に対する考え方、看護独自の機能について	講義	↓	資料配布 ③・④P43～57・⑤
	5	V. 看護過程のプロセス 1. アセスメント 1)アセスメントとは何か 2)情報とは何か 3)情報の種類(S・O データ) 4)情報収集の枠組みと整理 2. 看護過程の展開(実習の進め方) 1)事前学習必要性 2)情報収集について 3)1 号用紙・2号用紙の意味と記載方法	講義 演習 GW	5回目以降は、紙上事例を通して、アセスメントの実際を体験的に学ぶ。 取り組みと課題は随時提示。	資料配布 テキスト①③④ 各項目該当頁
	6	4)3 号用紙の意味と記載方法			
	7	2. 全体像の描写 1)全体像とは何か 2)全体像を把握する必要性 3)全体像の描写の仕方 3. 望ましい姿の設定 4. 看護問題の明確化 1)看護上の問題とは何か 2)看護上の問題の種類 3)看護診断・共同問題・医学診断 4)看護問題の表現方法と計画との関連	講義		資料配布

	8	4. 看護計画の立案 1)期待される結果の設定 2)看護計画の立案方法			資料配布
	回	授業内容	方法	事前課題・提出物	使用テキスト
授業計画	9	5. 実施 1)看護過程における実施の意義 2)実施のプロセス 6. 評価 1)看護過程における評価の意義・目的 2)評価の内容・種類・方法 V. 記録・報告 1. 患者記録の目的と種類 2. 看護記録 3. フローチャート 4. クリティカルパス 5. 報告			資料配布 ①p266～277 ③p56～61
	10～13	看護過程演習 <演習のねらい> ヘンダーソンの考え方に基づく看護過程について、協同学習を通して考え方や様々な視点を学び、共有することで、理解を深める。 演習方法・内容に関しては別紙資料参照のこと	1. 個人作業 2. 協同学習 3. 全体会	提出物 紙上事例について、アセスメントから計画立案までの一連の過程を、指定の記録用紙に記述し提出する * 冬期休暇後に提出	配布資料 テキスト・資料すべて
	14	V. 記録・報告(続き) 6. 記録の実際(注意することなど) 7. 経過記録について			
	15	試験			

◆成績評価の方法

全講義終了後の筆記試験と講義期間中の課題提出状況によって評価する。

◆担当教員より一言

看護過程を学ぶには、心理学、人間関係論などの基礎分野、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進などの専門基礎分野、基礎看護学、成人看護学、老年看護学などの専門分野など全ての知識を適用させる必要があります。それは、患者一人ひとり年齢・疾患・生活・考え方が違うからです。患者理解がなければ看護はできません。患者を理解する上では、年齢・疾患・生活はもちろんですが、患者それぞれの考え方を理解することがカギとなります。そのために、基礎科目の人間関係論などを学んできました。今後哲学や教育学などを学び多角的に対象を理解していくことが重要です。

看護過程を学ぶことは、看護を行う上での基本思考が理解でき、患者中心の看護を実践できる基盤となるため、単に知識を得ることだけではなく、実際に看護技術を提供し、対象の反応を観察し、観察によって得た対象の反応の意味を考え再び実践するという繰り返しのプロセスが必要となります。

看護過程では、「思考」を意識的に働かせる訓練が大切で、受身の講義で身につくものではありません。講義時間外の課題も多く、グループワーク、演習など様々な形態で講義をすすめていきます。予習・復習を前提とした主体的な参加を期待しています

◆教科書

- ① 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院.
- ② 専門分野 I 看護学概論, 医学書院.
- ③ 秋葉 公子 他:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践,ニューヴェルヒロカワ.
- ④ 渡邊 トシ子(編):ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント 同一事例による比較, ニューヴェルヒロカワ.
- ⑤ V. ヘンダーソン(著), 湯槇 ます(訳):看護の基本となるもの, 日本看護協会出版.
- ⑥ 高木 永子(監):看護過程に沿った対症看護, 学研.

◆参考文献

- ① 黒田 裕子:看護学生版シリーズ2 わかりやすい看護過程, 照林社
- ② 三上 れつ:第2版 実践に役立つ看護過程と看護診断 ヘンダーソンとゴードンのデータベースに基づく事例展開, ニューヴェルヒロカワ.
- ③ 野地 有子 他:楽しく学ぶクリティカルシンキング 根拠に基づく実践のために, 廣川書店.
- ④ 斎藤 悦子 他:看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ, 学研.
- ⑤ 任 和子(編):看護学生必修シリーズ 看護過程展開ガイド ヘンダーソン, ゴードン, NANDA の枠組みによる, 照林社.
- ⑥ 古橋 洋子(監):患者さんの情報収集ガイドブック, メディカルフレンド社.
- ⑦ロザリнда・アルファロールーフィーヴァ:基礎から学ぶ看護過程と看護診断, 医学書院
- ⑧黒田 裕子(監):改訂版 やさしく学ぶ看護理論, 日総研.

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	1年次 5～8月		
科目名	基礎看護技術 I 環境と活動	単位数	1単位 (2 単元)	単位時限数	30 時限 (2 単元)
担当教員	専任教員	講義時限	28 時限	試験時限・配点	2 時限・100 点

◆学習目標

内容 I (単元 環境)

1. 環境と健康の関連を理解し、健康な生活を維持するための環境条件を理解する。
2. 療養生活の場を、安全・安楽に整えるための知識と技術を習得する。

内容 II (単元 活動)

1. 対象と看護者の安全・安楽を守る有効な身体の使い方を学ぶ。
2. 活動・休息が人間に与える影響を知り、活動・休息のニーズを充足するための基本的援助方法を理解する。

授業計画

回	授業内容	授業方法	学習課題
1	I. 環境 ※講義のガイダンス 1. 看護技術を学ぶにあたって 2. 看護技術の基盤 <環境> 1. 看護援助における環境の位置づけ 1) 環境とは 2) 環境の分類 3) 人間と環境の関係 4) 看護学における「環境」の捉え方 ナイチンゲール、ヘンダーソンの考え方 1) 労働環境と健康	講義	毎回該当ページの予習を必須課題とする。
2	2. 療養生活環境の調整にかかわる基礎知識 1) 病院・病棟・室内の環境条件 3. 病院の環境のアセスメントと調整 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度 3) 光と音 4) 色彩 5) 空気の清浄性と におい 6) 人的環境(プライバシーとテリトリー) 4. 環境の測定(実習室ー学校内)	講義 演習 校内の環境測定	
3	環境測定の結果発表 5. 援助の実際 1) ベッド周囲の環境整備 2) 寝具に求められる条件 ① 寝床気候 ② マットレスの硬さと寝返り ③ 寝具の条件と褥瘡 ④ 褥瘡予防としてのマットレス 3) ベッドメイキングの実際 ①	講義	事前課題 ベッドメイキングの DVD を2回以上見ておく。
4	ベッドメイキングの実際 ② ★演習オリエンテーション:実習室使用に関する注意	実習室での演習	講義後より各自でベッドメイキングを実施できるよう練習する。
5	6. 病床環境の調整に関するアセスメント 1) 患者を迎える前に 2) 患者を迎えてから 3) 生活が開始されてから 4) 安全・安楽の視点での環境	講義資料 DVD 視聴	
6	4) 病床整備(グループ演習)	講義資料 演習	技術練習チェックリストを期限までに提出する
7	7. ベッドメイキング演習	演習	
8	8. 臥床患者のリネン交換 まとめ	演習	

回	授業内容	授業方法	学習課題
9	Ⅱ. 活動・休息 ※講義のガイダンス <基本的活動の援助> 1. 基本的活動の基礎知識 1) 日常生活動作 2) 良い姿勢とは 3) ボディメカニクス	講義	【事前課題】 ヴァージニア・ヘンダーソン『看護の基本となるもの』P49-51
10	2. 体位 1) 基本体位 2) 特殊体位 3. 活動と休息 1) 対象の状況に応じた援助方法 2) 姿勢・体位の援助に関する安全	講義	【学習課題】 <u>「同一体位を体験して気づいたこと」</u> 2時間同一体位を体験し、レポートを提出
11	3) 体位変換の必要性と方法 4) 援助の実際 水平移動 体位変換 移送車への移動・移送 車椅子移送	講義 演習	【関連科目】 1. 解剖生理：運動器 2. 看護物理学：力のモーメント、てこの原理、ボディメカニクス
12	<睡眠・覚醒の援助> 1. 睡眠の基礎知識 2. 睡眠のアセスメント 1) 睡眠障害の種類と要因 2) 睡眠に関するアセスメントの留意点	講義	【事前課題】 V・ヘンダーソン『看護の基本となるもの』P52-54
13	3. 援助の実際② 1) 活動援助場面におけるヒヤリハット事例 2) 歩行介助 3) 体位変換・水平移動・車椅子への移乗・移送 演習のオリエンテーション	講義 演習	技術練習チェックリストを期限までに提出する
14	演習 看護技術チェック(車いす移乗)	演習	
16	全単元終了後 筆記試験		
◆使用テキスト・視聴覚教材 ① 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学：医学書院 ② 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学：医学書院 ③ 看護技術プラクティス：学研 ④ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術：医学書院			
◆参考文献・DVD/ビデオ ① 看護の基本となるもの：日本看護協会 ② 看護覚え書：現代社 ③ 看護技術 講義・演習ノート：医学芸術社 ④ 看護技術がみえる 臨床看護技術 ①：メディックメディア			
◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。			
◆担当教員より 内容Ⅰ(単元 環境) 療養生活を送っている患者を取り巻く外部環境を、安全で快適な状態に整えることは、自然治癒力を高めるための手段の一つとして重要である(ナイチンゲールの看護の基本)。そのため、看護者は対象の療養生活に目を向け、療養環境を快適・安全に保つように意識した行動が必要であり、今回はその方法を学ぶ。更に、看護者も患者にとっては人的環境の一部であることを理解する。そのために、患者とより良い関係を築けるように、コミュニケーション法や人間関係論、礼儀作法として日本の文化と生活を学ぶことが必要である。 内容Ⅱ(単元 活動・休息) 健康上の問題があることで、人間は思うように体を動かさずに生活している患者さんが多くいます。そのため、思うように体が動かさない人の身体的・心理的・社会的影響を理解することが大切です。その上で体を動かさない患者さんが快適に生活するための安全・安楽な援助方法を学ぶことが必要です。更に、患者のみならず看護者自身の身を守るため、人間工学の知識を関連させて援助技術を学ぶことが看護を行う上で基本となります。看護の基本になりますので必ず実施できるようになりましょう。			

回	授業内容	授業方法	学習課題
7	2. 病床での衣生活の援助 1) 援助の基礎知識 衣類を用いることの意義、熱生産と熱放散、被服気候、衣生活に関するニーズのアセスメント 2) 援助の実際 病衣の選び方、病衣・寝衣の交換(臥床患者の寝衣交換、持続点滴中の場合、四肢に障害がある場合)	講義 P・P 使用 テキスト④	課題2 レポート課題 演習に向けた事前学習 事例を踏まえた①寝衣交換の具体的方法と②実施上の留意点について
8	3) 寝衣交換演習(体験) ① 全身に力が入らず、自力での体位変換が不可能な患者 ② 肘関節・右膝関節を曲げることが出来ない患者	協同学習による体験学習	
9	3. 清潔の援助の実際 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 ①清拭・寝衣交換の実技試験オリエンテーション ②事例の着眼点・技術演習チェック表の記載方法	講義 P・P 使用 テキスト②④ デモンストレーション 技術練習	基礎看護技術ファイル持参
10 45分	★実技試験 清拭・寝衣交換	実技試験	
11 ・ 12	2) 援助の実際 入浴・シャワー浴、手浴、足浴・フットケア(爪切り)、陰部洗浄、洗面、眼・耳・鼻の清潔、口腔ケア	講義 P・P、視聴覚教材使用 テキスト②④ 技術練習	《準備する物》 歯ブラシとコップ、爪切り ボディソープ(石鹸)
13	2) 援助の実際 洗髪・洗髪演習オリエンテーション	講義 視聴覚教材使用 テキスト④ デモンストレーション	協同学習
14 ・ 15	洗髪演習		協同学習
16	全単元終了後 筆記試験		
◆使用テキスト・視聴覚教材 ①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 《コミュニケーション》 ②竹尾恵子監;看護技術のプラクティス(第3版)、学研 《コミュニケーション・清潔》 ③長谷川 雅美;自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード(第2版)、日総研 《コミュニケーション》 ④系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 《清潔》 《DVD/ビデオ》 ※①～⑤単元Ⅰコミュニケーションにて使用 ⑥単元Ⅱ清潔にて使用 ①看護実践能力向上シリーズ 患者のこころによりそう看護コミュニケーション コミュニケーションの基本(17分);京都科学 ② ①同シリーズ 効果的なコミュニケーションスキルⅠ(17分);京都科学 ③看護論シリーズ アイダ・J・オーランド、アーネスティン・ウィーデンバック(27分);ビデオ・パック・ニッポン ④看護教育にいかす討議法Ⅰ 討議をうまくすすめるためには!(20分);ビデオ・パック・ニッポン ⑤看護教育にいかす討議法Ⅱ さあ!カンファレンスをしよう(20分);ビデオ・パック・ニッポン ⑥生体のしくみ 第2版 第1集 Vol.004・005 皮膚と粘膜(14分);医学			
◆参考文献・DVD/ビデオ 講義中に適宜提示する			
◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。また、単元:清潔の技術試験の合格をもって、基礎看護技術Ⅱの科目を修得とする。			
◆担当教員より 内容Ⅰ(単元 コミュニケーション) コミュニケーションは生活する上で不可欠です。看護は人間を対象とするものであり、コミュニケーションは基礎看護技術を含め全ての看護実践の基盤と言えます。コミュニケーションは、自分自身と相手を理解し、相手を思う気持ちがなければ成立しません。さらに、相手に自分の思いを伝える能力を身につけ、社会の動きを知り、人間の特性について学ぶ必要があります。本単元は、人間関係論、社会学、心理学、文章表現法、日本の文化と生活との関連があります。本科目で習得する知識・技術・態度を、基礎看護技術、各看護学、さらには臨地実習へと発展させていくことを願います。体験学習やゲームでは、恥ずかしがらずに思い切って役にたりきり楽しみましょう!! 内容Ⅱ(単元 清潔) 病状や治療上の理由などで自身を清潔にすることができない場合、そのままにしておくこととさまざまな問題を引き起こすことになり、清潔の保持は生理学的な面・精神的な面から非常に重要です。本単元では清潔を保持するために必要なさまざまな知識と看護技術を学びます。関連としては、解剖生理学(皮膚の構造と機能、循環器など)、基礎看護技術(環境・活動・排泄・フィジカルアセスメントなど)、看護物理学などであり、さらに V・ヘンダーソン『看護の基本となるもの』清潔・衣生活の章を読むことで理解が深まります。本単元は、体験・演習・実技試験と体を動かして学ぶものが多いです。初めての实技試験がありますが、各自の準備と練習が成果につながり、また看護を学んでいくうえで重要となります。			

シラバス

科目分類	専門分野	開講年次・時期	1年次 6月～9月		
科目名	基礎看護技術Ⅲ（食事・排泄）	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師	専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	2時限 100点

【学習目標・排泄】

- 人間にとっての排泄行動とその意義について、解剖学・病態生理学的な点を理解しながら、生理的欲求と日常生活における行動としての排泄のメカニズムについて学ぶ
- 対象のニーズと安全・安楽をふまえた排泄援助技術を習得し、状況に応じて実施するための基本技術について学ぶ

【学習目標・食事】

- 人間にとっての食の意味と、対象に応じた栄養摂取方法を理解する。
- 対象に応じた食事の援助方法を理解し、適切な食事援助技術を修得する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題・備考
授 業 計 画 （ 排 泄 ）	1	I. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1. 排泄の意義	講義	【事前学習課題】 排泄に関する解剖生理
	2	2. 排泄器官の機能とメカニズム	講義	
	3	3. 排泄のアセスメント II. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1. トイレにおける排泄介助		
	4	2. 床上排泄援助 ①便器・尿器介助 ②陰部清拭	講義 VTR・DVD	【夏季休暇中の課題の提示】 紙おむつ装着、排泄の体験
	5	【演習】 臥床患者の便器を使った排泄の援助 ※デモンストレーション	演習 (20分/1人)	
	6	III. 導尿 1. 一時的導尿 2. 持続的導尿	講義 DVD視聴・体験学習	
	7	II. 自然排尿および排便の介助の実際 3. おむつによる排泄援助 ①陰部洗浄 ②紙おむつ装着・交換 ※実技試験オリエンテーション・デモンストレーション	講義 DVD視聴	
	8	【実技試験】 臥床患者のおむつ交換と陰部洗浄	実技試験 (25分/1人)	技術試験までに練習を繰り返すこと
	9	IV. 排便を促す援助 1. 浣腸 2. 摘便 V. ストーマケア	講義 VTR視聴・体験学習	
授 業 計 画 （ 食 事 ）	1	1. 健康生活における食事の意義 2. 栄養と食事に関する看護の役割 3. 食事に関する生理学的メカニズム	講義	<事前学習課題> 解剖生理学Ⅱ（消化器系） の復習。専用の課題用紙あり。
	2	1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 2. 医療施設で提供される食事	講義	
	3	1. 食事への援助 2. 援助の実際 3. 摂食・嚥下障害時の援助	講義 デモンストレーション	★演習の援助計画について説明。 ※援助計画とは、基礎看護学実習Ⅰ-2で使用する記録用紙
	4	【演習】 ベッドギャッジアップ30度の食事介助を実践	演習	★演習後①行動記録の記載。②援助計画の修正。
	5	1. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 経静脈栄養法	講義	

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	1年次 7～2月		
科目名	基礎看護技術Ⅳ (フィジカルアセスメント)	単位数	1単位	単位時限数	30時限
担当講師	専任教員	講義時限	28時限	筆記試験時間・配点	90分・70点

◆学習目標

1. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性を理解できる。
2. フィジカルイグザミネーションの基礎的知識と技術を習得できる。
3. フィジカルイグザミネーションによって得た情報から、系統的にアセスメントする基礎的能力を身につける。
4. 呼吸・循環を整える基本技術を身につける。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	フィジカルアセスメント総論	講義	
	2	フィジカルアセスメント総論 フィジカルイグザミネーションの基本技術	講義・体験	
	3	身体各部の計測	講義	
	4	生命徴候(バイタルサイン) 体温・呼吸・脈拍・心拍の観察	講義・体験	
	5	生命徴候(バイタルサイン) 血圧・意識状態の観察	講義・体験	
	6	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義	
	7	実技試験の説明と課題の提示	講義・デモンストレーション 体験	
	8	循環器系のフィジカルアセスメント	講義	
	9	リンパ・乳房・腹部のフィジカルアセスメント	講義	
	10	バイタルサイン測定の実技試験 (45分)	実技試験	
	11	感覚器、神経系のフィジカルアセスメント	講義・体験	
	12	筋・骨格器系のフィジカルアセスメント	講義・体験	
	13	フィジカルアセスメント演習 (45分)	講義・グループワーク	
	14	フィジカルアセスメント演習	プレゼンテーション	
	15	呼吸・循環を整える技術	講義・体験	
	16	試験	筆記試験	

◆教科書

- ①系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I、医学書院
- ②村上 美好(監):写真でわかる 看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス、インターメディカ
- ③竹尾 恵子(監):看護技術プラクティス 第3版、学研

◆参考文献

- ◆成績評価の方法** 「筆記試験」「実技試験」「態度・課題への取り組み」を合わせて 100 点満点とし、合わせて 60 点以上で及第とする。
成績評価の内訳…紙上試験 70%+実技試験 10%+態度・課題への取り組み 20%

シラバス

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	1年次 5～8月		
科目名	基礎看護技術V 診療の補助技術	単位数	1単位 (2 単元)	単位時限数	30 時限 (2 単元)
担当教員	専任教員	講義時限	28 時限	試験時限・配点	2 時限・100 点

◆学習目標

内容 I (単元 診察・安楽)

1. 患者が安全。安楽に診察・検査を受けられるように援助する技術を習得する。
2. 安楽を促すための看護として、環境・体位・電法に関する生体への影響を理解しその方法を習得する。

内容 II (単元 創傷・感染)

1. 感染および院内感染発生の要因を理解し、その防御のための基礎知識を習得する。
2. 創傷治癒過程と影響要因を理解し、治癒を促進するための援助方法を習得する。

授業計画

回	授業内容	授業方法	学習課題
1	I. 診察・安楽 ※講義のガイダンス 1. 本講義の概要の説明 2. 診察とは 3. 検査とは 1) 検体検査 2) 生体検査	講義	血液検査に関する課題
2	1. 検体検査 1) 血液検査 ①静脈採血法 (真空採血法) ②動脈血採血 ③簡易血糖測定 (DVD 視聴) 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査	講義	
3	2. 生体情報のモニタリング 1) 心電図検査 2) 心電図モニター 3) SPO2 モニター 4) 血管留置カテーテルモニター 3. 検査処置の介助 1) X線 2) CT 3) MRI 4) 内視鏡 5) エコー 6) 肺機能検査 7) 核医学検査 8) 穿刺	講義 動画視聴	
4	4. 静脈採血法 (真空採血法) の手技	講義 DVD 視聴	採血チェック表の作成
5	1. 演習オリエンテーション 2. 採血 DVD 視聴 3. デモンストレーション	講義 DVD 視聴 デモンストレーション	
6	1. 静脈血採血演習 (真空採血法)	演習	
7	1. 演習を終えての振り返り 2. 体位保持 (ポジショニング) 3. 電法 1) 冷電法 2) 温電法 4. 身体ケアを通じてもたらされる安楽	講義 DVD 視聴	活動・休息の復讐
8	II. 創傷・感染 <感染> 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 3. 感染経路別予防策	講義	復習を兼ねて学習します
9	4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 感染性廃棄物の取り扱い 6. カテーテル関連血流感染対策 7. 針刺し防止策	講義	

回	授業内容	授業方法	学習課題
10	8. 消毒操作 消毒スティックの使用 ＜創傷管理＞ 1. 創傷管理の基礎知識	講義 体験学習	皮膚と粘膜の機能・構造について1年の講義を復習しておくこと
11	2. 創傷処置 1) 創洗浄と創保護 2) テープによる皮膚障害 3. 包帯法 体験学習(環行帯→らせん帯、麦穂帯)	講義 体験学習	包帯法の予習をしておく
12	4. 褥瘡発生の基礎知識 5. 褥瘡予防	講義	
13	体験学習 テープ・フィルムの外し方 無菌操作(滅菌覆布の取り出し、滅菌手袋の装着)	体験学習	
14	6. ドレーン管理 1) ドレーンの目的と種類 2) ドレーンの管理、観察のポイント 体験学習 ① ドレーンの固定 ② 褥瘡予防のケア(背抜きとずれの体験、状況に応じたマットレスの必要性、エアーマット)	講義 体験	動きやすい服装で参加すること
15	全単元終了後 筆記試験		
◆使用テキスト・視聴覚教材 ① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護技術プラクティス 学研 ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院			
◆参考文献・DVD/ビデオ 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2) 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ 3) 看護技術—講義・演習ノート 下巻 診療に伴う看護技術 4) 写真でわかる看護のための感染防止アドバンス DVDBOOK インターメディカ			
◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。			
◆担当教員より 内容Ⅰ(単元 診察・安楽) 看護師は、保助看護では療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者と定義されています。1年次で学んだ療養上の世話に関する看護技術を基盤に2年次では診療の補助技術を学び、より専門的な知識と技術が必要となります。採血の技術習得を通して、安全安楽な看護技術や患者との信頼関係構築についても学んでいきましょう。 内容Ⅱ(単元 創傷・感染) 感染防止技術と創傷管理方法を学び、自分自身も感染から身を守る方法を理解します。感染から身を守る技術を身につけることで、患者に安全な看護を提供することにつながります。この単元を学ぶことで、検査や与薬の援助技術の基本を理解することにもつながるので、基本を理解していきましょう。			

科目分類	専門分野 I	開講年次・時期	2 年次 4～9 月		
科目名	基礎看護技術VI(与薬)	単位数	1 単位	単位時限数	30 時限
担当教員	専任教員	講義時限	28 時限	試験時限・配点	2時限・80 点

◆学習目標

1. 薬物・輸液療法の意義・目的を理解し、薬物・輸液療法を受ける患者に必要な援助の方法を理解する。
2. 安全に与薬を行うシステムがわかる。

回	授業内容	授業方法	使用テキスト・事前課題
1	※講義のガイダンス I. 与薬の基礎知識～薬と与薬 II. 薬物療法の意義～薬物療法とは、意義・目的 III. 薬物療法の基礎知識 1. 薬物に関連した法令 2. 医薬品の取扱い 3. 日本薬局方による品質管理	講義・ビデオ視聴	シラバス、資料配布 テキスト①p286～p290 テキスト②p277 ビデオ④ 37 分(必要箇所) * 次回の講義に必要な知識を調べて提出(ワーファリン、カルシウム拮抗薬、交感神経・副交感神経による生体機能の調節)
2	4. 薬物の吸収・排泄のメカニズム 薬物の投与経路と血中濃度の推移、投与経路と体内循環、食物と吸収作用の関係、剤形、用法 5. 薬物療法のアセスメント 薬剤効果に影響を与える因子 ハイリスク薬品	講義	資料配布 テキスト①p286～p290 テキスト②p330～p332、p352 視聴覚教材⑤ (必要箇所)
3	IV. 薬物療法における看護師の役割 1. 看護師の法的役割 2. 薬物療法における看護師と他職種との関連 3. 看護師の役割	講義	資料配布 テキスト①p286～p290 テキスト②p330
4	V. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1. 共通する与薬の方法 指示の確認、配薬方法、起こりやすい事故	講義 グループワーク	資料配布 テキスト①p466 ★「6R の確認」「3 回の確認」について調べておく。
5	2. 各種の与薬法 1)経口、その他(口腔内、直腸内)	講義・DVD 視聴 体験(5R・3 回確認) デモンストレーション	資料配布 テキスト①p290～p301 テキスト②p336～p351 視聴覚教材⑥ (必要箇所)
6	1)その他の与薬法(点眼・点入、点鼻、吸入、貼付塗布・塗擦法について) 2)注射法の基本(注射法の適用、容器の種類、注射器・注射針の種類)	講義・DVD 視聴	資料配布 テキスト①p290～p301、301～310 テキスト②p352～p354 ※7 回目の資料を配布する。事前に予習し、7 回目の講義に臨むこと。
7	2)注射法の基本 バイアル・アンプル・注射器・注射針・輸液セットなどの取り扱い、清潔操作、点滴滴下数の計算について	講義・DVD 視聴 実技	資料配布 テキスト①p290～p301、301～310 テキスト②p352～p354 ★注射器や注射針の各部位の名称、注射器・注射針・バイアル・アンプルの扱い方について調べておく。
8	3)皮内・皮下・筋肉内注射	講義・DVD 視聴 体験(注射部位の確認)	資料配布 視聴覚教材⑦ テキスト ①p310～p323、②p355～p366 ★皮内・皮下・筋肉内注射の注射針の太さ、刺入角度、注射部位を調べておく。 ★肩と上腕の筋(前面・後面)、骨盤内と臀部の筋、下肢(大腿)の筋および、腕神経叢、腰仙骨神経叢、動脈の位置関係について図示し、 8 回目講義前日 に提出。

9	3)皮下注射・筋肉内注射 ★演習についてのオリエンテーションと演習に向けての課題提示	実技 オリエンテーション	テキスト ①p310～p323、②p355～p366 ※10 回目の資料を配布する。事前に予習し、10 回目の講義に臨むこと。
10	4)静脈内注射 5)点滴静脈内注射	講義・DVD 視聴 体験(三方活栓の原理、カニューラからの側注、留置針の取り扱い)	資料配布 テキスト①p323～p344 テキスト②p366～p376 視聴覚教材⑦(必要箇所) ★静脈注射、点滴静脈注射で使用する注射針の種類と太さ、点滴滴下数の計算方法、輸液セットの構造を調べておく。
11	5)点滴静脈内注射の実技	実技	★10 回目講義の復習。技術の流れを復習しておく。
12	VI. 輸液療法 1. 輸液療法の意義・目的 2. 輸液療法を受けている患者の看護 3. 中心静脈カテーテル刺入介助 4. 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い VII. 輸血療法 1. 輸血療法の目的・適応 2. 輸血用血液製剤 3. 輸血の実際 4. 輸血の副作用の原因と対策	講義 DVD 視聴	資料配布 テキスト①p323～p344 テキスト②p366～p376 テキスト①p337～p343 テキスト②p390～p396 視聴覚教材⑧ 30分(必要箇所)
13	演習(皮内・筋肉内・点滴静脈内注射)	※演習に関する詳細は、後日説明します。 演習に向けて、 <u>成績評価対象となる課題提出</u> (グループと個人)があります。練習の際は、テキスト③も参考になります。	
14	VIII. 薬物療法における安全対策 1. 危険予知レーニング	講義 グループワーク	資料配布

◆使用テキスト・視聴覚教材

- ①藤崎 郁; 専門 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II、医学書院
- ②竹尾恵子監; 看護技術のプラクティス(第 3 版)、学研
- ③川島みどり(監); 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術、医学書院
- ④【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第 1 巻 総論・薬の知識 37 分
- ⑤【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第 2 巻 薬の管理とハイリスク薬の知識 24 分
- ⑥【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第 3 巻 与薬技術とヒヤリハット① 28 分
- ⑦【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第 4 巻 与薬技術とヒヤリハット② 51 分
- ⑧【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第 5 巻 与薬技術とヒヤリハット③ 30 分

◆参考文献・ビデオ

- ①看護技術が見える VOL. 1 MEDIC MEDICA
- ②決定版 ビジュアル臨床看護技術 照林社
- ③看護技術講義・演習ノート 診療に伴う看護技術 下巻、医学芸術社
- ④石塚睦子他; 注射の基本が良くわかる本 照林社
- ⑤ナースのための危険予知レーニングテキスト メディカ出版

◆**成績評価の方法** 紙上試験は、80 点とする。提出物や課題への取り組みを 20 点とする。合計 100 点満点とし、6 割以上を持って及第とする。

◆担当教員より一言

シラバスのテキスト該当ページを読み、事前学習に取り組んだ上で講義に参加してください。実技の際は、爪・手指が清潔であることが講義を受ける条件です。本科目は、看護技術の基本の中でも「診療に伴う看護技術」です。直接身体へ及ぼす影響が大きく、生命に直結する危険性が高い技術です。安全・安楽な技術を実施する為には、薬物治療にともなう身体反応の理解、疾病に対する薬物療法の基礎知識が前提となります。また、医療安全の視点から、確実な知識・技術・態度を身につける必要があります。その為には、主に生化学・薬理学・解剖生理学・疾病と治療・臨床看護総論・総合看護技術(リスクマネジメント)との科目を関連させながら理解することがポイントです。国家試験の出題基準に関することは、別紙のとおり出題基準からも見える通り問題数が増えている傾向もありしっかりと理解しましょう。